

吉野川紀行

業務部 主事 長 張 由 紀
研究第二部 主事 平 野 由 美

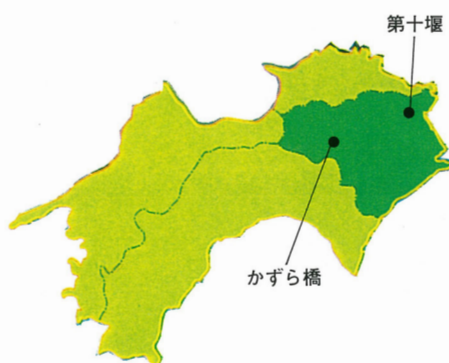
厳しい冬もようやく和らぎ草花が芽吹き始めた3月下旬、私達は四国を訪れました。徳島県を流れる吉野川は、四国最大の河川であり、暴れ川と呼ばれるほど洪水が多くその度に川幅を広げ、今では1,200mという日本一の川幅を誇っています。この時期はちょうど水の少ない期間のため、川面は穏やかでとても暴れ川と呼ばれているようには見えませんでした。また吉野川の水は、河口部で取水しても飲料水として大丈夫な位きれいということです。吉野川は怒ると怖い川だけど、本当は優しい川のように感じました。

まず私達は吉野川に設けられている第十堰（写真①）を見に行きました。240年もの昔に設けられ幾度かの改修工事を経て今の姿に至っています。野鳥などが見られ、憩いの場として人々に親しまれています。

次に数ある史跡の中から高地蔵（写真②）を見に行きました。通称うつむき地藏さんといわれている高地蔵は高さ約4.3mあり、昔吉野川は洪水が多かったため“お地藏さんだけでも水没しないように”高くなっているといわれています。住民の人々の優しい心遣いを感じました。



写真①



写真②

翌日私達は徳島駅発の列車に乗り、吉野川と共に徳島県を横断し大歩危駅まで足を運びました。ここから少し行った所に日本三大奇橋の一つで、国の重要民俗文化財に指定されているかずら橋（写真③④）があります。長さ45m、幅2m、材料は野性のシラクチカズラ（マタタビ科猿梨）を5トン使用しています。平家の武者がこの地へ逃れ、追っ手に追われた時、橋をすぐに切り落とせるようにとシラクチカズラで編んだといわれています。かずら橋の姿に魅せられて、年間約30万人もの人が訪れます。歩くたびに揺れ、足元の隙間から下を流れる川（吉野川水系祖谷川）が見えるので、橋にしっかり掴まりながら一步一步かなりの時間をかけて渡りました。周りの景色も雄大で、普段の慌しい生活が小さな事に思える程素晴らしいものでした。最後に祖谷溪谷（写真⑤）を見下ろしながら、後ろ髪を引かれる思いで四国の地を後にしました。あと一週間もすると桜が咲き始めるとのこと。桜はもちろん、春夏秋冬いつでも私達の心に安らぎを与えてくれる、そんな情緒あふれる四国でした。



写真③



写真④



写真⑤